

NEWS

M I Z U N A M I

みずなみ

会議所ニュース

発行所 瑞浪商工会議所
〒509-6121 岐阜県瑞浪市
寺河戸町1043-2
☎0572-67-2222
☎0572-67-2230

編集責任者 瑞浪商工会議所
広報委員会

購読料 1部30円
印刷 丸印印刷株式会社



想いを力に 新しい時代へ

瑞浪市立 土岐小学校 5年生 (申年生まれの子ども達)

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃は商工会議所の事業・運営に對し格別のご理解とご支援を賜わり深く感謝申し上げます。

我国は、二十年にわたる「供給過剰・デフレ」の状態から、「供給不足・インフレ」に移行する「変わり目」の時期にあります。安倍晋三首相の政策から「アベノミクス相場」と呼ばれる日本株の上昇が始まってから、三年が経過しました。この間に、日経平均株価は2倍強に値上りし、過度な円高・ドル安の修正が輸出企業の収益を押し上げて、日本経済を



会頭 鷲尾 賢一郎

けん引して参りました。しかし、アベノミクスが目指した、企業収益増・設備投資・賃上げ・消費活発化と云う経済の好循環は少し目詰り状態になってきました。我々企業経営者は昨年以上に設備投資・賃上げすることが、自社自身に跳ね返ってくることを理解せねばなりません。経営者心理が「貯蓄主体」から「投資主体」にすばやく転換出来るかどうかが重要であります。私はようやくそうした動きが現れて来たと考えております。

環太平洋経済連携協定(TPP)は経済的にも地政学的にも、世界史上最も重要な貿易協定であります。このTPPで最大の恩恵を

受けるのは間違いなく我国日本であります。又、リニア開通に向けて東京・名古屋を結ぶ地域が経済や文化などあらゆる面で連携し、首都機能分散移転の受け皿を目指すことも必要となります。東濃地域は製造業だけではなく、自然が豊富で、災害が少なく、住み易いという住環境の良さもアピールすることが大切です。

瑞浪市では「産官学金労言」が連携して知恵を絞り「地方版総合戦略」の策定が進められております。地方創生は大変困難な問題であり、「人口急減」と「地方の疲弊」は何んとしなくても解決しなければならぬ課題であります。経済成長の担い手、地域創生の主役は、我々民間企業であります。瑞浪商工会議所は全国の会議所のネットワークを最大限活用して、皆様の経営を全力で後押しして参ります。今年も多大なるご支援・ご協力をお願い致します。新年のご挨拶と致します。

地方創生

アベノミクス勝負の年



未来へつなぐ 私のふるさと ～私たちが考えるまちづくり～

明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

瑞浪市は、「幸せ実感都市みずなみ」の実現のために、地域を中心とした魅力あるまちづくりを目指し活動されています。そこで瑞浪商工会議所は、身近な地域を元気にするアイデアや住んでいるまちへの思いや夢を小学生の子ども達にも考えていただき、夢ある瑞浪市推進の参考にしてほしいと、新年号特集を計画いたしました。児童ならではの自由な発想や地域社会への思いなどを、ふだんの生活や学校で感じたこと・体験したことをもとに、小学5年生の皆さんに素晴らしい作文を書いていただきました。全ての作文を紹介したいところではございますが、各校1名の作文をご紹介します。

みずなみ市の 自然を残すために

明世小学校 河野 花音



みずなみ市は、山がたくさんあります。春はさくらがきれいで、夏は木かげがあつてすずしく、秋は紅葉して、とても明るくなります。だから、わたしは、この山の自然がこわされないように、山の木が少ないと思うところに木のなえや花を植えた

たプレートを付けたり、立て札をたてたりして目印にします。そうすれば、自分の植えた木の成長が楽しみで、山に来る機会が増えます。そうすると、自分の木の周りの環境を良くしたいと思ひ、自然にゴミ拾いや草取りができると思ひます。



笑顔がいっぱいの瑞浪市へ

釜戸小学校 渡邊 江理花

自然がたくさんあることは、人にも動物にも良いことが多いので、この自然をずっと先まで残すことができように、努力したいです。

今、瑞浪市では、草がはえている空き地をよく見かけます。その土地を何かに利用できないかと考えました。その名前は「瑞浪市えがお広場」です。

みずなみ市がきれいな自然が多いことで有名な市になれたらいいなと思ひます。

「瑞浪市えがお広場」では、空き地にある土を使って野菜をつくります。そして、その取れたての野菜を売ったり料理をつくりたりします。瑞浪市だけのオリジナル野菜をもっと増やしていけたらいいと思ひます。

す。なのでそれを手伝う事はその若い人が農業に入る事の第一歩になるかなと思ひので積極的に手伝っていきたいです。小さなことだけれどぼくはその農業をふやしていく第一歩を大切にしているいろいろな農業にチャレンジしていきたいです。

また、希望者は、農業体験をすることができ、そのとった物を持



農業のさかんな瑞浪市

稲津小学校 土屋 巨輝

ぼくは、色々な所に行ったことがないので瑞浪市が農業がさかんか分かりません。でも今高れい化が進んで農業で働いている若い人が少ない事をテレビや社会科の勉強で習いました。ぼくの通学路には田んぼがたくさんあります。でもその田んぼで働いている人は

テレビや社会科の教科書の写真で見たとような高れい者ばかりでした。ぼくはそれを見たととき、「どうしてお年よりばかりなんだろう。」と思ひたから家に帰ってから考えました。ぼくは一つ理由を考えました。それは若い人たちが株式会社とか会社に入ってしまうからだと思います。だから今の若い人にはぜひ農業に入ってもらいたいと思ひます。ぼくのおばあちゃんも畑で仕事をしています。



▲稲穂の垂れる田んぼ (写真提供: 瑞浪市)

私が考える未来の町

陶小学校 畑 ひかり



私が考える未来の瑞浪市は、陶芸体験をたくさんできるようにして、瑞浪市の人たちが、「陶器っておもしろい

な。瑞浪市に住んでいてよかったな。」と思ひるような町にしたいです。また、他の町の人たちが、「瑞浪市って陶器がさかんですてきなな。私もこの町に住みたいな。」と思ひる町にしたいです。私たち陶小学校では

その「瑞浪市えがお広場」の売りあげの割合を瑞浪市に寄付して、もっといい瑞浪市にしていくために役立て、もっとたくさんの人に、瑞浪市のことを知ってもらいたいんです。